

令和4年度 体力向上における各校の成果(小学校)

坂井市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	三国南	小学校	児童の目標となる学習カードを作成したことや業間活動を継続的に実践したことで、児童の体力向上につながった。 ※特に6年生(男女)は16種目中10種目で平均値を上回った。
2	三国北	小学校	5月実施の「マラソントライアル」から10月実施の「マラソン大会」までに15秒以上タイムがアップするタイムアップ賞を獲得した児童が全校で60%以上いた。目標をもって練習に取り組むことで、タイムアップの成果につながったと思われる。このような取り組みを続けてきたことで、全国体カテストでは4、5、6年全ての学年で20mシャトルランの記録が全国平均を超えることができた。
3	雄島	小学校	学校評価において「体育の授業に真剣に取り組む、業間や昼休みに進んで外で遊んでいる」という問いに、低学年、高学年ともに80%以上の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。 立地を活かした活動(三国運動公園でのマラソン大会や三国サンセットビーチでのサーフィン教室など)で、児童の意欲を高めることができた。
4	加戸	小学校	運動を楽しんでいる児童が増え、体カテストでA「運動が好き」と答える児童は1.1ポイント増加した。マラソン大会に向けて、意欲を持って取り組む児童が増えた。縄跳びには進んで練習しようとする児童が増え、休み時間には廊下で積極的に取り組む姿が見られた。
5	三国西	小学校	学校評価の「運動する楽しさを感じている」と答えた児童が94%と昨年度よりも向上した。 休み時間、積極的に外に出て運動する児童が多く見られた。
6	平章	小学校	業間体育を計画的、継続的に実践できたことで、運動への意欲を高めることができた。「体育の授業や休み時間などに、進んで体を動かしている」児童の割合が94.0%と、目標とする数値を達成することができた。 毎月、基本的な生活習慣やネット利用についての振り返りの取組を行ったことで、健康的な生活についての意識を高めることができた。
7	長畝	小学校	積極的にICTを取り入れ、考えたことを記録していくことや児童同士で動画撮影をし、動きを分析することで、考える体育を実現することができ、体育の学習に対する意欲を高めることができた。 業間運動やなわとび板の設置、体育委員会による企画などで、運動と関わる時間や機会を設けることができた。そのことが、学校評価において運動をする習慣が身につけていると答える保護者、児童の割合を目標の90%に近付けることができたと考えられる。 昨年度は上体起こしのTスコアが、どの学年も50を下回っていたが、今年度は年間を通して上体起こしに取り組んだことで、どの学年のTスコアも50を大きく上回っている。また、反復横跳びや50m走といった瞬発力を要する種目にも効果が表れている。
8	高棕	小学校	【児童へのアンケートの結果】 運動をすることが楽しいと感じている児童…95%(昨年度95%) 児童は運動に積極的に取り組み、授業や休み時間に体を動かすことを楽しんでいる姿が多く見られた。 マラソンや器械運動、なわとび等で、目標をもって運動に取り組む、自身の成長を実感することができた。
9	鳴鹿	小学校	業間マラソンでは、進んで取り組んでいる児童を取り上げたり、マラソンカードを使って意欲付けを行ったりした結果、学校評価「業間マラソンを通して、体力の向上を図る」項目において、目標を達成できた児童の割合は96%と高い割合となった。 パワーアップデーに一輪車演技発表を設定してあるので、業間や昼休みに外に出て練習する児童が多く見られ、学校評価「朝や昼休みに運動ができた」児童の割合が91%と目標を達成した。

10	磯部	小学校	<p>めあてをもたせて学習を進めることができた。体育部で作成した学習カードを活用して授業を進めることができた。学習したことを記録し、ふり返りと次時のめあてを書くことで児童自身が成長を実感したり、自ら意欲的に運動に親しもうとしたりする記述が見られた。</p> <p>また、様々な場を作ったことで、意欲的に運動に取り組み、運動量の増加につながった。タブレットを使い、自分自身の運動動作の確認や手本動画を視聴することで、自分や友達の問題を把握し、解決していこうとする学習につなげることができた。</p> <p>体育館に鉄棒を設置したことにより休み時間にも意欲的に鉄棒に触れ活動する子どもの様子が見られた。</p> <p>プールでの水泳が実施できた。児童の泳力の低下は心配されるが、楽しんで学習する様子が見られた。水辺の安全に関する心得の指導は全校で実施することができた。</p> <p>運動会では、体育の学習の成果を生かすことができた。新型コロナウイルスに対応した種目の工夫がされた。運動会の準備を進める中で協力することや責任を果たすことの大切さを実感することができた。</p> <p>自然に親しむ活動ができた。</p> <p>安全に気をつけながら楽しんで活動する様子が見られた。</p> <p>あそびんピックでは昨年と同様、様々な施設や遊具を活用して遊ぶ児童が見られた。カードの半数以上スタンプを押せた児童は172人(42%)、項目全てにスタンプを押せた児童は30人であった。(全校児童457人)</p>
11	明章	小学校	<p>学校評価アンケートの中で「体育的 school 行事で力を出し切った」と答えた児童は9割をこえた。重点内容としていたことが達成できたといえる。</p> <p>また、なわとび大会ではたてわり班の大縄を行うことができ、異学年交流を推進することができた。</p>
12	春江	小学校	<p>12月の学校評価では、前年に引き続き約90%の児童が「体を動かすことが好き」と回答している。授業や業間、学校行事などを通して、多くの児童が運動の楽しさに気付いていると実感している。</p>
13	春江西	小学校	<p>学校評価を見ると、約9割の児童が休み時間や業間運動を通して、よく体を動かすことができたと答えている。コロナ禍で時間や場所を制限されることが多くなったが、その中でも意欲的に体を動かしている。</p> <p>今年度は、体育委員会の企画でマラソン大会前の1ヶ月間、縦割り班対抗でグラウンドを走る周回数を競い合ったが、子どもたちはとても意欲的に取り組み、心と体を鍛えるのに有効な活動になったと思う。また冬期間には、業間を使ってなわとびを行うなど、体力の向上を図ることができた。3年ぶりに業間活動を再開することができたことが、子どもたちの充実感にもつながったと思う。</p>
14	大石	小学校	<p>筋力トレーニングを継続して取り入れることで、握力や上体起こし、ボール投げの数値が向上した。(自校比較)</p> <p>マラソンカードを工夫したことで、意欲的に運動に取り組むことができた。</p>
15	春江東	小学校	<p>授業の導入では、アナログ動作やサーキットトレーニングを多く取り入れたことで、児童が楽しみながら積極的に運動に取り組むことができた。</p> <p>また、休み時間では、意欲的になわとびや鉄棒練習、外遊びなどで体を動かす姿が多く見られた。その結果、跳躍力や柔軟性、筋持久力が全国平均を上回った。</p>
16	東十郷	小学校	<p>長座体前屈においては数年前から柔軟性を高める運動を続けている4・5・6年生が、全国と本県平均値より大幅に上回った。</p> <p>また、体育委員会によるラジオ体操のお手本動画を「全国ラジオ体操コンクール」に応募したところ、「かんぼ生命 特別推奨」を受賞した。</p>
17	大関	小学校	<p>マラソン大会やなわとび大会に向けた活動では、学習カードを使い主体的に練習に取り組む姿が見られた。学校評価で「自分のめあてに向かって、進んで運動できた」と答えた児童の肯定的回答が84.4%になり、スクールプランの目標値(80%)を上回った。</p> <p>器械運動では、児童がタブレットを使って演技の様子を撮影した。自分の課題に気づいたり、友達と教えあったりする姿が見られ、その気づきをもとに、さらに技の完成度を高めようと進んで練習に取り組んでいた。</p>
18	兵庫	小学校	<p>縦割り班で、持久走前にミニゲームを取り入れたり、なわとびの教え合いの時間を設けたり、業間活動の記録用紙を配付したりするなどして、意欲的に運動する児童の育成を目指した。学校評価では、体力づくりを最後までがんばることができたと答える児童が多かった。また、体育行事での縦割り交流の様子は、大変活気にあふれていた。</p>
19	木部	小学校	<p>学校評価アンケートにて85.4%の児童が「マラソン練習に一生懸命取り組んだ」と、肯定的な回答だった。秋季マラソン記録会で、半数以上の児童が春季マラソン記録会の記録を更新することができた。</p> <p>体育の授業や業間活動の中で、教え合いや話し合いの場を設け、自分から積極的に言葉がけしていくように働きかけたことにより、上級生が下級生に教える姿、同学年同士で声をかけ合う姿が多く見られ、共に体力づくりに励もうとする意欲が高まった。</p>